



### 「30周年記念事業」を振り返って

30周年記念事業 実行委員長 宇都野 穂

30年といえば、ちょうど平成の元号が続いた期間にあたり、人が社会の第一線で活躍するピークの期間と概ね合致するといつてよいでしょう。先端基礎研究センターの設立時を知る方から生きた情報を共有していただくことが徐々に難しくなっていくであろう、このタイミングで周年事業を行えたことは、当センターの今後を考える上で大きな意義があったと思います。記念式典には約250名ものご参加をいただきました。ご多忙の中、多くの方がお越しくくださったこと、実行委員一同厚くお礼申し上げます。

今回の記念事業を行うにあたって、実行委員会を式典の約1年前に発足させ、計16回の実行委員会を開催しました。これだけの回数の実行委員会を開催したのは、メンバーが自由な雰囲気の中でアイデアを出し合い、自らの30周年記念事業をつくるという意気込みの現れでした。各メンバーの個性のもと、思いもかけない方向へと企画は引っ張られていきました。大きなホールでの開催や、そこに高校生を招待して若い世代と科学を語らうことなどはその中から生まれたものです。また、センターの外国人研究者とその家族によって、外国人参加者に向けて英語への同時通訳も行いました。ポスターなどのデザインもメンバーによるオリジナルなものです(表紙および記念Tシャツ(左上写真)に使われているイラストは実行委員の青柳登氏の作品です)。当日は高梨センター長が急病のためビデオメッセージによる参加となりましたが、この不測の事態を無事乗り越えることができました。

参加された方々がこうした「個」の強さをベースにした、先端基礎研究センターの組織の強さを感じ取ってくださったら、本記念事業は大成功だったと思います。研究にもこうした強みを存分に発揮できるよう邁進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 30周年記念事業 実行委員会

宇都野 穂(委員長)、家田 淳一(副委員長)、青柳 登、Orlandi Riccardo、芳賀 芳範、長谷川 勝一、深谷 有喜、村上 真琴、根岸 光治、徳永 陽、小浦 寛之、朝岡 秀人、高梨 弘毅

